

遺跡でみつかる建物跡といえ
ば、建物そのものではなく、
ほとんどが地面に残った柱穴
だけです。そこには実際、ど
のような建物が建っていたの
でしょう?



いにしへの建物を復元する

昔の建物は、主に木材でつくられていたので、柱穴だけを残して土の中で腐ってなくなって
しまいます。そこで、屋根や壁の構造、柱の組みあわせ方などは、木材が残りやすい低湿地
の遺跡から出土した**建築部材**をもとに復元していきます。



柱穴からは、柱の数、柱間の距離や建
物の規模が分かります。



出土した部材からは、実際の柱の寸法や
組み合せ方、樹種が分かります。



写真の復元建物は、弥生時代の高床
建物です。風通しがよく、穀物など
を保管する倉庫に適していると考え
られます。

建物は、人や食料などを寒さ、暑さや外敵か
ら守るなど、生活に欠かせないものです。
私たちは、建物を復元していくことで、様々
な環境に適応して暮らしてきた先人達の知恵
を知ることができます。

(財) 鳥取県教育文化財団
調査室

美和調査事務所

〒680-1133

鳥取市源太 12 番地

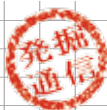
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL : 0857-51-7553

FAX : 0857-51-7550

メールアドレス :

matsui@pref.tottori.jp



あけましておめでとうございます。新しい年が明け、
心機一転といきたい所ですが、どんよりと空は暗く、寒
い日々が続いています。暖かい春が待ち遠しいです。
今年も最新のおもしろい情報を随時お知らせしてい
きますので、お楽しみに!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

事務所ではどんなことをしているの？

～整理作業をご紹介します！～

美和調査事務所では、調査中に記録した図面や写真、出土した遺物を整理する作業を行っています。この作業をとおして、昔の人々のくらしぶりをうかがい知ることができます。

たとえば、遺跡でもっともたくさんみつかる土器は、持ち帰ってからこんな作業をしています。



出土した土器は、ブラシなどをつかって、傷つけないように泥を洗い落とします。

たとえ小さなものでも、ていねいに洗っていきます。

うわ、これだけたくさんの土器があるとたいへんそう！



洗った土器は、乾かしてからバラバラの破片をつぎ合わせていきます。

たくさんの破片から接合するものを探すのは一苦労で、根気のいる作業です。



少しずつもとの形がみえてきました。大きなものになると、2人がかりで作業を行います。



欠けている部分を石こうなどで補強すると、土器はもとの形がわかるようになりました。

これらの復元作業をすることで、土器がどのような形をしていたのかがわかります。なかには何かを盛るために便利な形をしているものもあり、人々がより使いやすくするために土器の形を工夫したようすを知ることができます。

また、土器には何かに使った痕跡が残ることがあり、たとえば、外側にすすが付いていれば、その土器は煮炊きにつかったと考えられます。

こうしたことを手がかりとして、昔の人々がどのようなくらしをしていたのかを調べていきます。